

平成30年度

## 学校関係者評価報告書

令和元年8月

筑波研究学園専門学校  
学校関係者評価委員会

## ■平成30年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、日頃の教育活動について自己点検・評価を実施してきました。また、平成25年度からは、企業及び業界団体や保護者、卒業生等で構成する学校関係者評価委員会を設置し、様々な立場を代表する委員の皆様から学校運営・教育活動実績報告書をもとにご議論いただき、本校の学校運営や教育活動に対して点検・評価していただいております。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の評価結果について報告します。

### 1. 実施日時・場所

令和元年8月27日(火) 12:00～14:45

筑波研究学園専門学校 6号館大講義室

### 2. 実施方法

#### (1) 実施組織：学校関係者評価委員会

##### ○委員長

古森 貞弘	茨城県立牛久高校元校長	教育関係
-------	-------------	------

##### ○評価委員

仁衡 琢磨	一般社団法人茨城研究開発型企業交流会会長 ペンギンシステム株式会社代表取締役社長	業界団体 (地元企業)
-------	---	----------------

高橋 浩	茨城県自動車整備振興会教育部教育課課長代理	業界団体
------	-----------------------	------

河野 正博	一般社団法人茨城県建築士事務所協会 常務理事 株式会社 河野正博建築設計事務所代表取締役	業界団体 (地元企業)
-------	---	----------------

飯野 晃	土浦商工会議所 中小企業相談所・商工振興課課長	業界団体
------	-------------------------	------

坂巻 操	筑波メディカルセンター病院 事務部外来一課課長	地元企業
------	-------------------------	------

倉田 和典	社会福祉法人えがお 理事・事務長 特別養護老人ホームひかり施設長	地元企業
-------	-------------------------------------	------

大友 国彦	五籃会会長(保護者会代表)	保護者
-------	---------------	-----

笠間 俊雄	輝峰同窓会会長(卒業生代表)	卒業生
-------	----------------	-----

##### ○学校関係

柿崎 明人	学校法人筑波研究学園 理事長 筑波研究学園専門学校 学校長
-------	----------------------------------

勝村 正巳	筑波研究学園専門学校 ものづくり学科長・経営情報学科長
-------	-----------------------------

杉山由紀夫	筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長
-------	----------------------

原 智樹	筑波研究学園専門学校 建築環境学科長
------	--------------------

横瀬 和子	筑波研究学園専門学校 医療情報学科長
-------	--------------------

大森 淳子	学校法人筑波研究学園 法人企画部
-------	------------------

	筑波研究学園専門学校 こども未来学科長
--	---------------------

野口 孝之	学校法人筑波研究学園 法人企画部長 筑波研究学園専門学校 副校長
吉川 勝	筑波研究学園専門学校 教務部次長
木我 直樹	筑波研究学園専門学校 事務部次長
赤羽根隆之	学校法人筑波研究学園 法人企画部顧問
志賀 宏	学校法人筑波研究学園 法人事務局長
佐久 芳夫	学校法人筑波研究学園 法人事務局顧問

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：平成30年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価

### 3. 評価の項目

次の10項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

### 4. 評価項目に対する評価

(1) 各項目について、次の4段階を基準とし、小数点第一位で評価しています。

4：適切      3：ほぼ適切      2：やや不適切      1：不適切

(小数点表示は評価者の平均点を記載)

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項等を記載

### 5. その他

平成30年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

## 項目1 教育理念・目標

評価：3.5

- ①「専門学校」経営の視点は「不易・流行」。「学校経営理念」は「不易」。設問3〔学校の将来構想〕・5〔各学科の教育目標・育成人材像〕は「流行」。時代の動向に十分対応した改善が求められる。
- ②「産学協同」に基づいた学校であることが、明確かつ丁寧にホームページ等で分かりやすく示されている。
- ③産業界との連携が取れている学校だと評価する。但し課題・検討事項に挙げられている通り、少子化を踏まえて方向を定める事がより一層必要である。
- ④学校の将来構想は各々の立場で検討とあるが、経営者側の立場ではどのような将来構想を抱いているのかを伺いたい。
  - ➡新しい時代を見据えた既存学科の再編成、専門性を高めるための連携施設の設置等を進めている。
  - ➡本校では、各専門分野における職業実践専門課程の定着化を重要と考えている。将来的には各専門分野の教育研究機関としての役割を担い、地域に貢献できる学校づくりを目指している。

## 項目2 学校運営

評価：3.3

- ①上記1項の理念に基づく2項は「流行」。専門学校には「時代を反映させる器量」が必定。設問3〔運営組織や意思決定機能〕の評価「3.0」は組織としては課題。
- ②自己点検・評価の評価点を踏まえ、3と評価した。
- ③運営組織や意思決定機能は学校運営の要なので、必要な規程の改訂は早急に整備しなければならない。
- ④設問3〔運営組織や意思決定機能〕の評価3.0に対して具体的には書かれていないが、内容は把握されていると思うので、ぜひ改善につなげて欲しい。
  - ➡・設問3〔運営組織や意思決定機能〕については、決裁規程の見直しを行っている。また、今年度より教務部、事務部の部門体制の見直しを行っている。
- ⑤規程を開示していながら閲覧者がいないのは見づらいからではないか。特に労働関係に係わる規程については配付すべきである。
  - ➡・規程が閲覧しにくい点については、閲覧方法の見直しを行い改善したい。
- ⑥〔学校運営〕の評価については、自己点検の状況を踏まえると3.3では高い。しかし、問題点が明確なので2月の評価委員会までに改善されることを期待する。

### 項目3 教育活動

評価：3.4

- ①校内「評価」3.0が半数に及ぶ。各学科における経営に対する意識の向上、生き生きとした教員の研修意欲は魅力ある学校の姿。早速、後期に期待する。
- ②「専門学校」としては「資格取得」の成績をもう少し向上されたい。また産業界の動向にあった教育を行う学科・コース等の整備は道半ばと承知している。
- ③各種検定試験に取り組んでおり、熱心な先生の質、向上心が伺える。
- ④「職業教育の視点に立った教育方法の工夫・開発」、「関連機関との連携によるカリキュラムの見直し」、「外部関係者からの評価」は、日頃の産学連携によるものである。
- ⑤企業連携が難しい学科はあるのか？
  - ➡ ・各学科では、関連業界で求められる人材育成を目標としている。そのような意味から、業界団体や企業等と連携した職業教育は不可欠であり、ほとんどの学科で、企業との連携を重視している。
  - ・検定合格を第一目標としてきた学科においては、業界団体・企業等との連携が十分とはいえない状況にあった。職業実践専門課程の制度発足後、学校の設立趣旨（産学連携）を再確認し全学科において職業教育の充実を目指している。

### 項目4 学修成果

評価：3.5

- ①設問1「就職率の向上」の高い就職率は評価できる。設問3「退学率の低減」は世情と照らして最難関課題である。「卒業生へのフォロー」はTISTの将来性に関わる。
  - ➡ ・高等教育機関における卒業生全員に対する就職率は、大学77%、短大81%、専門学校80%である。本校では卒業後の就職を意識した指導を徹底しており、平成30年度の就職率は97.5%を達成している。本校では、卒業しても就職しないという学生は育てていない。就職につながる職業教育を基本としている。
  - ・退学理由の一つに経済的な事情があり、年々増加傾向にある。本校では、分納制度を取り入れているが、納入計画案の提示等、支援の検討が必要と考えている。
  - ・卒業生の活躍状況の把握は十分とはいえない。卒業生の就職先との連携を深めることで、卒業生の活躍状況の把握が可能と考えている。また、企業等との連携を密にするため、昨年度より産学連携担当を各学科に配置している。
  - ・卒業生へのフォロー体制は重要と考えている。卒業生が学校に遊びに戻って来るかどうかは、在学中における教員の関わり方次第である。
- ②学生作品や卒業生作品が展示されており一目でわかる。
- ③企業で活躍している卒業生との交流は、学校や学科の将来を考えるうえで重要である。ぜひ、企業訪問等を通して卒業生の活躍ぶりを把握してほしい。
- ④充分によい教育をされていると思うが、より良い学生の獲得を行わなければ学修成果の伸びが期待できないと思う。広報のより一層の充実が必要。
- ⑤自分の会社を例にとると、新入社員の離職率が課題となっている。良い人材を育てるのは難しく、その人にあわせた教育も必要と考える。また、採用において良い学生を集めるのも難しい現状である。どのような教育が必要なのか。
  - ➡ ・学生は多様化しており毎年カラーも違う。例えば、こども未来学科では、学生や保護者へのかかわりにおいては、教員の年齢や経験を活かし教員がチームとして関わるなどの工夫をしている。

## 項目5 学生支援

評価：3.4

- ①この項の学生支援は努力している。現在の世相から設問2〔学生相談支援〕、3〔経済的支援〕、4〔健康管理支援〕は一層努力して欲しい。
- ➡ 〔学生相談支援〕 学生相談は担任以外の学科教員等、複数教員で対応することとしている。また、相談内容により部門長（事務部・教務部）が関わっている。
  - ➡ 〔経済的支援〕 学費の関係で奨学金が学費につながらないケースがあり、学費の納入計画が課題。また、分納制度についても充実を図っており、新入生からはより充実したサポートをおこなっていききたい。
- ②ポリテクセンター（短期職業訓練）等との差別化が今後より一層必要となると思われる。そのような視点から夜学の受け入れ等も検討が必要かとも思料する。
- ➡ 本校としては資格取得や技術教育に加えて、人間力の育成をしっかりとおこなっていききたい。また職業訓練としては、公共職業訓練事業の委託を受けて、求職者向けに実施している。また、過去には、在学生も含めた資格取得講座（ホームヘルパー養成、建築CAD等）を実施したことがある。
- ※保護者からのご意見：いつも学生への熱心な指導をありがとうございます。息子も3年生となり良き指導のおかげで年々成長していることを感じるができます。保護者として微力ながら少しでも学校に貢献できればと思っております。

## 項目6 教育環境

評価：3.5

- ①専門学校としては設備の老朽化対策は必須。インターンシップも専門学校の必須課題。
- ➡ ・施設の老朽化への対策・補修は必須の課題。この教育環境として重視すべき点はインターンシップや実習を含めた学内外の教育体制である。引き続き、企業実習の充実を図っていききたい。
- ②学科による差異があり、教育体制の更なる充実が見込める学科があるとのこと、今後の改善を期待したい。
- ③実習・インターンシップの受入機関を確保することは、企業からの意見聴取や卒業生の活躍状況の把握に繋がり、教育課程の見直し等にも活かされる。ぜひお願いしたい。
- ④インターンシップに馴染まない学科はあるのか？
- ➡ ・専門学校全体で見た場合、他校では実施できているので、インターンシップに馴染まない学科があるわけではない。
- ⑤インターンシップから入社につながるケースはどのくらいか？
- ➡ ・インターンシップは学生主体なのに対して、企業実習は学校のカリキュラムとして実施。現状は両方が混在した状態。ものづくり・自動車は、内定先での実習。医療は実習から内定につながるケースが多い。
- ⑥病院実習として、できるだけ多くの実習生を受け入れたいが指導にあたる人手が不足している。多くの実習生を受け入れるための体制を、業界全体で考える必要があると考えている。
- ⑦建築業界でも、インターンシップ制度には期待している。インターンシップの受け入れは東京の協会で運営しているが、地方では申し込んでくる学生が少ない。受け入れは積極的におこなっているので、いつでも申し出て欲しい。
- ⑧自動車整備業界は、インターンシップの受け入れが多く実績もある。

- ⑨これまでも保育、医療、介護などで実習生を受け入れている。実習から就職につながるケースもあり、即戦力としても期待している。

## 項目 7 学生の受け入れ募集

評価：3.0

- ①「入学対策委員会」の活動に期待。広報部と学科との連携、学科毎の対応に差のないようにすることが必要。
- ➡ ・入学相談室と学科が連携し、入学対策委員会やオープンキャンパスの事前ミーティング等で情報共有を図っている。情報に関しては、高専連携やガイダンスが、オープンキャンパスにつながっているかを学科毎に分析。オープンキャンパスに参加する高校生に加え、保護者への対応も考慮した体制づくりを考えている。
- ②学校単位ではなく、地域全体が包括的に問題を共有し、対策を立ててみてはどうか。
- ③貴校の特色有る活動が学生・社会に十分に伝わっていないようにも感じる。折角特色有る活動をされているのでより多様な手法での広報など工夫されるとよい。
- ➡ ・情報発信に関しては Web や SNS を活用し、最新情報の迅速な公開を目指している。オープンキャンパス直前には、学科毎にニュースを発信。情報発信において、各学科の取り組みにばらつきがないよう、足並みを揃えて取り組んでいきたい。

## 項目 8 財務

評価：2.8

- ①具体的な財務改善とあるが、どのようなことを進めているのか。
- ➡ ・年単位から月別の経費管理へ移行を進めている。
- ②少子化の現状から財務は厳しいと拝察する。種々の努力による改善を期待したい。
- ③収支のバランスが大事。事業所別に収支を算出し所属長が把握することが必要。1つの学科が1つの学校のつもりでなくてはならない。赤字が続く事業は見直しをしなければならない。また、決算書は大項目の決算から細かいところまで見る必要がある。また、教職員が内容を理解することが重要である。
- ④学校として考えると、ある程度費用を掛ける必要がある部分もある。費用を掛けなければ、いい人材は伸びない。基本に立って、どういう人材を育てるかの視点が大切である。
- ⑤病院でも、診療科別の原価計算が求められており、オープンにしている。
- ⑥経費節減にも限界があるのでバランスを考えて取り組む必要がある。

## 項目 9 法令等の遵守

評価：3.6

- ①各設問とその実態との格差はどうか？
- ➡ ・関連法規に沿って、個人情報保護法など規定を整備しており、働き方改革に向けた取り組みや敷地内禁煙などにも適宜対応している。また、学生に対しては、車通学の学生の運転マナーなど、法律に対する意識づけを継続的に取り組んでいく必要がある。
- ②検定の受験者名簿の扱い（パスワード管理）など、個人情報に関する意識が高いと感じる。
- ③しっかり手続きを踏まれていると考える。一方、評価するための情報、評価基準の統一が十分ではないかとも思われる。現実には大変難しい課題ではあるが。

- ①この項の実態を評価したい。欄外「改善」のコメントに期待したい。
- ②こども未来学科学生のボランティア活動は学校のイメージアップに繋がっており高く評価している。
- ➡ ・1年生のボランティアは導入講座として位置づけ。2・3年生のボランティアは、実習後。それぞれに適した人材をあてる。また先輩・後輩を組み合わせるなどをおこなっている。4年生は全員が対象。
- ③ボランティア活動への支援等が素晴らしい。
- ④学校が設置される前までは、畑しかないような場所であったが、周辺道路も整備され、多数の学生が生活できる場となった。活性化も含め地域に与える影響は大きい。
- ⑤実際に検定試験の会場として借用しており、学校側の対応はよい。
- ➡ ・試験会場の外部への貸出に加え、公共職業訓練の講座開設を実施している。
- ⑥ボランティア募集の来る学科、来ない学科があるのか？
- ➡ ・各専門分野の中で工夫して、実施していきたい。また、学科の中での取り組みから、学校として五藍会などの協力を得て支える体制を取りたいと考えている。現在のところ、ボランティアについては、こども未来学科の取り組みが中心。社会福祉協議会など行政からの働きかけを受けておこなっている。ボランティアは、気持ちだけでは難しい部分がある。ボランティアは、人間形成の場として位置づけ、やみくもには実施できないと考える。